vinetur

Liv-exの週間取引額でボルドーが35.7%を占める

米国の買い手が購入の38%を占め、価格が下落した古いボルドーワインも多いなか、熟成ヴィンテージへの需要を下支えした

2026年11月24日（火）



11月23日月曜日、Liv-exのデータによると、ボルドーは高級ワインの流通市場で首位をさらに固め、取引をけん引する主要産地であり続けた。熟成ヴィンテージへの需要に加え、米国からの買いが回復したことが後押しとなった。

Liv-exによると、直近の週間集計でボルドーは取引額の35.7%を占めた。また、米国の買い手が購入者の首位に返り咲き、購入活動全体の38%を占めた。Liv-exの取引市場は、高級ワインの国際需要をリアルタイムで示す指標として、ワイン商やコレクター、生産者から広く注目されているため、この変化は重要だ。

Liv-exのデータが示す全体的な傾向からは、今年に入り古いボルドーワインの多くで価格が下落する一方、高級ワインが引き続き取引を主導していることが分かる。Liv-exによると、ボルドーの取引シェアは年初来で66.5%から68.3%に上昇し、同取引所で他のワイン産地との差を広げた。

報告書によると、月間の取引量は比較的安定しているものの、取引額の多くは需要の高い一部の古いヴィンテージが占めている。つまり、市場は価格や取引量の全面的な上昇に支えられているわけではない。むしろ、買い手が基準となるワインとみなす、確立された銘柄とヴィンテージの限られた範囲に取引が集中している。

なかでも、2005年のボルドーは再び際立った。Liv-exによると、買い手の強い関心を集め続け、市場で最も人気の高い熟成ヴィンテージの一つとしての地位を維持した。バックヴィンテージ全般に価格下落圧力がかかるなかでも2005年産への需要が続いたことは、高い評価、長期の熟成実績、二次市場での確かな流動性を備えたボトルには、買い手が今も対価を払う意思があることを示している。

今回のデータは、高級ワイン取引の動向を左右する米国の買い手の役割も浮き彫りにした。Liv-exによると、米国からの取引増加がボルドーへの需要をさらに押し上げた。ワイン業界にとって、これは重要な動きだ。二次市場で米国の参加が拡大すれば、オークションハウスや個人コレクターにとどまらず、価格設定や在庫判断、購買戦略にも影響を及ぼす可能性がある。輸入業者や流通業者、ワイン商は、需要が最も強い産地や、価値を保ちやすい、あるいは市場でより早く売れる可能性のあるワインを見極める手がかりとして、こうした取引動向を参考にすることが多い。

そのため、Liv-exの集計は、高級ワインに関わる事業者をはじめ、飲料業界全体にとっても意味を持つ。ボルドーへの取引集中が強まり、米国の買い手が首位に戻ったことは、一部の価格が軟化するなかでも、コレクター向けワインに対する国際的な需要が堅調であることを示す可能性がある。生産者や販売業者にとっては、発売時期や在庫管理、輸出市場での熟成ワインの位置づけを検討する際の判断材料となり得る。

Liv-exは、自社プラットフォームにおけるボルドー市場について、伝説的なヴィンテージと主要な国際的買い手の活発な参加に支えられ、堅調だと説明した。最新の数字は、バックヴィンテージの多くで価格が下落した年であっても、ボルドーが注目と資金を集め続けており、その取引を古い優良銘柄が大きく支えていることを示している。